

土木学会論文集の完全版下投稿用和文原稿 L^AT_EX 作成例

論文集 編集委員会¹・事務局²・Civil ENGINEER³

¹正会員 工博 土木大学教授 工学部土木工学科 (〒 160-0001 東京都新宿区四谷一丁目無番地)
E-mail: your_name@foo.ac.jp

²正会員 工修 土木建設株式会社 技術開発部 (〒 160-0002 東京都新宿区三矢六丁目 13-5)

³Member of JSCE, PhD., JSCE Corp.

このファイルは土木学会論文集の完全版下原稿（和文）を作成するために必要な、レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。と同時に、版下原稿そのものの体裁 (A4) をとっているため、このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。

このアブストラクトを含め、タイトル部分の幅は本文よりも左右を 1 cm ずつ狭くします。アブストラクトのフォントは明朝体 9pt (英文 10pt) を用いてください。アブストラクトの長さは 7 行以内です。アブストラクトの後に 1 行空けて、キーワードを数語、Computer Modern Italic 9pt (英文 10pt) のフォントで書いて下さい。

Key Words: *Computer Modern, italic, 10pt, several words, one blank line below ABSTRACT, indent if key words exceed one line*

1. タイトルページ

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

タイトルページは二つの部分で構成されます。

1. タイトル部分 (題目, 著者, 所属, 概要, キーワード): 横一段組
2. 本文部分: 横二段組

このほか、ヘッダとフッタ (ページ番号) が付きます。

タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ 1 cm ずつ大きくとって下さい。すなわち A4 用紙の幅に対して左右それぞれ 3 cm ずつのマージンをとります。

タイトルは A4 用紙の上辺に約 3 cm のマージンを取り、センタリングします。以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル: ゴシック体 20pt フォント (英文なら 17pt)
(約 1.5 cm のスペース)

著者名: 明朝体 12pt フォント
(約 5 mm のスペース)

著者所属: 明朝体 8pt フォント (英文 9pt)
(約 1 cm のスペース)

アブストラクト: 明朝体 9pt フォント (英文 10pt),
7 行以内
(1 行のスペース)

キーワード: Computer Modern, italic, 9pt,
英文 10pt, 数語, 2 行以内

著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、上記のように並べて下さい。‘Key Words’ という文字はボールドイタリック体にします。

(2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文とキーワードの間に約 1 cm のスペースを空けてください。

本文は二段組で、左右のマージンは 2 cm ずつ、段と段との間のスペースは約 6 mm とします。下辺のマージンは 24 mm です。

本文には明朝体 10pt (英文 11pt) フォントを用いて下さい。各部分のフォントはクラスファイル ‘jsce.cls’ を用いた場合には自動化されていますから、著者が指定する必要はありません。

(3) ヘッダとフッタ

タイトルページにはヘッダ機能を使って論文集の号巻数を入れます。また、すべてのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページを入れます。事務局から通知された数値を最終原稿作成時に入れてください。L^AT_EX の場合には最初の頁番号のみが必要です。二回のコンパイル後、自動的に最終頁番号は表示されます。

2. 一般ページ

(1) 脚注および注

第2ページ以降の通常のページは上辺のマージンを19mmとします。それ以外はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

(2) 各種マクロ

マニュアルを読んでください。便利なものを定義してあります。

3. 見出し（見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントして折り返す）

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは3段階までとします。第1レベルの見出し（節）はゴシック体とし、**2.**などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように、上を1行以上、下を1行程度空けて下さい。

(2) 第2レベルの見出し

第2レベルの見出し（小節）もゴシック体で、**(4)**などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

(3) さらに深い節

a) 第3レベルの見出し

第3レベルの見出し（項）は、括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。第3レベルより下位の見出しは用いないで下さい。

4. 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式 (1a)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z \, dz \quad (1b)$$

のように本文と独立している場合でも、 $C_D, \alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪い

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

供試体番号	高さ (cm)	幅 (cm)
1	145.5	25.0
2	175.5	40.0
3	190.0	65.0

と版下原稿として受け付けません。

$$f(x) \equiv \sum_{n=1}^{\infty} a_n g_n(x), \quad a_n = \dots \quad (2a, b)$$

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。引用は式 (2b) のようにします。

5. 図表

(1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じ（あるいは見開きで見える範囲の）ページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、「二段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの**表-1**や**図-??**のように「一段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を一段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には1行程度の空白を空けて区別を明確にします。

(2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。特にキャプションの大きさ(9pt (英文 10pt))より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは**表-1**のようにインデントして折り返します。英文キャプションの場合は、見出しを**Table 1**や**Fig. 2**として下さい。クラスファイルを利用していけば `\figno` 等で自動的にそうなります。

6. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように^{1),2)} 上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないでください。

なお参考文献リストのあとに1行空けて、事務局か

ら通知された原稿受理日を右詰めで書いて下さい。

7. 最終ページのレイアウトと英文要旨

最終ページには英文のタイトル、著者名および要旨を横一段組で書きます。このサンプルにあるように、本文や参考文献リストまでの二段組部分の左右の柱の高さをほぼ同じにし、1 cm 程度の空白を入れて英文要旨を配置します。英文要旨部分の幅はタイトル部分と同じく本文よりも左右を 1 cm ずつ狭くします。

謝辞: 「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

付録 I 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置くこと。

参考文献

- 1) Hill, R.: A self-consistent mechanics of composite materials, *J. Mech. Phys. Solids*, Vol.13, pp.213-222, 1965.
- 2) Blevins, R.D.: *Flow-Induced Vibration*, 2nd ed. Van Nostrand Reinhold, New York, 1990.

- 3) Karniadakis, G.E., Orszag, S.A. and Yakhot, V.: Renormalization group theory simulation of transitional and turbulent flow over a backward-facing step, *Large Eddy Simulation of Complex Engineering and Geophysical Flows*, Galperin, B. and Orszag, S.A. eds. Cambridge University Press, Cambridge, pp.159-177, 1993.
- 4) ファン, Y.C.: 固体の力学/理論, 大橋義夫, 村上澄男共訳, 培風館, 1970.
- 5) 土田建次, 木村 一: 版下原稿スタイルフォーマットの作成について, 土木学会論文集, No.333/II-99, pp.20-33, 1994.

(2012. 11. 18 受付)

PRINT SAMPLE FOR JAPANESE MANUSCRIPT FOR JOURNALS OF JSCE USING L^AT_EX

Editorial COMMITTEE, Japan SOCIETY and Civil ENGINEERING

The present file has been made as a print sample of the camera-ready manuscripts for Journal of JSCE. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 1 cm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font size used here is 10 pt. The length may be within 7 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered. The title and authors use 12 pt font.